

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393300138		
法人名	株式会社 アスク		
事業所名	グループホームみかんの木		
所在地	蒲郡市金平町堀ノ内2-2		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	平成31年1月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・東に三河湾、西には三ヶ根山と静かな場所に位置し、建物の南には自然の光と空気を全身で感じられる開放感ある憩いのテラスがあり、隣接している小学校からは、元気な子供たちの声が気持ちよく響いてくる環境にあります。そんな恵まれた環境を大切に、一人ひとりの関わりを増やし、何でも話せる信頼関係を築き、一人ひとりが必要とされていると、日々感じられるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2393300138-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2393300138-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年12月3日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本年3月に開所したばかりの新設事業所です。設計段階から管理者の意見を組み入れたという建物は温かみのある木目調の表示板が配され、2ユニットのリビングや脱衣所は用途に応じて一体化でき、使い勝手が非常に良いことが目を惹きます。また小学校と真向かいのテラスではランチや流しソーメンを楽しむことができ、「僕らも食べたい〜」と歓声があがる日もあります。他のサービス種別からの転職者もいるため、「なんでもしてあげたい」気持ちに駆られて『待つ』ことができない場面も少なくなかった開所の頃に比べ、認知症ケアが浸透してきた今日この頃は食事中の会話も弾み、利用者の笑顔が其処かしこに咲いています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念のタペストリーは職員が作成し、職員の目につく廊下に掲示している。毎日の記録に使うタブレットの壁面に表示し周知している。	事業所名をモチーフに理念が策定されています。皆でより実践できるようにとみかんの木の幹を『信頼関係』、そこに『笑顔』等一つひとつの実を見立て、「だんだん実がなります」とタペストリーを手作りしています。	『のんびり』を実現させるためには自分は何をするのか、を意識できるような個人目標があると、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者との外出時(散歩等)には、近所の方と挨拶を交わし、近隣にある神社の掃除や地域の清掃活動に参加している。又、隣接している小学校の参加可能な行事に参加している。	形原八区に加盟し、回覧板も届いています。岩上神社で毎日掃除をおこなう近隣住民には仲間に加えてもらえたほか、ゴム体操、ダンスレク、紙芝居のボランティア訪問もあり、開所したばかりなのに充実しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・近隣の方と顔なじみになり、事業所の内容への理解を得られるように積極的に関わりを持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行事報告、利用者様の状況報告を行い、委員の方からの意見等をいただき、サービス向上に繋げていけるよう努めている。	3月の開設から6月、8月、10月と回を順調に重ねています。「お祭りに参加できるか…」と事業所から質問したり、家族から「三味線ボランティアを紹介…」との提案があったりと双方向の意見交換がみられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市担当者に運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を把握して頂き、双方で情報共有に努め何でも聞け、協力関係を築いている。	蒲郡市長寿課、地域包括支援センター其々の職員には運営推進会議に揃って足を運んでもらえており、事業所でも集団指導をはじめとする市主催の研修会には積極的に出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全体会議時『身体拘束をしないケア』を理解するよう周知し取り組んでいる。ご本人の行動に、寄り添い一緒に散歩するなどして、安心して頂けるよう努めている。	法改正に伴う『身体拘束適正化検討委員会』は遅ればせながら11月に設置し、今月を含み年度末までに急ぎ毎月の会議運営を予定しています。他にも全体会議内において『自己ひやりはっと』として位置付けて、協議の機会をつくっています。	『身体拘束適正化検討委員会』の会議運営は、年度末までに必ず4回の実施を終えることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・周知徹底している。日頃から入居者様の尊厳を守り、共に支えあう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・内部、外部研修で権利擁護に関する制度の理解に努めている。必要性のある入居者様には、地域包括支援センター・社会福祉協議会との連携を取り、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時に、契約内容を十分説明し、不安や疑問、意向を聞きながら、納得していただき同意を得ている。又、制度改正時は、その都度説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時に家族の意向や要望等を聞いている。	家族には毎月『みかん木だより』を通じて1ヶ月の様子を手書きメッセージや写真で届け、ミニカードと意見箱を置いて、面会時には意見収集に努めています。なお、1件入っていた課題は解決方法を決めて改善済です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に1度全体会議を行っており、その際に職員からの意見、提案を聞き運営に反映させている。代表者、管理者は職員一人ひとりの意見を聴く体制を取っている。	全体会議だけでなく、普段から忌憚ない進言が挙がっています。今後はリーダー会議(代表、管理者、リーダー2名とで構成される)が側面的支援となって、職員意見がより実現していくことが期待されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は、感情のコントロールが不可欠な職場と理解しており、常に職員の働きやすい場の提供と言葉にしている。職員の疑問等には迅速に対応するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・週1度リーダー会議を行っており、職員のケアや職員からの提案等に迅速に対応できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡協議会が行う連絡会議、勉強会等に参加し、情報交換や事例検討会など、相互でサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に本人の状態、意向を伺い、初期段階で本人が困っていること等、時間をかけ(必要であれば面談や施設見学の回数を多く取る等)聞くように努め、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・希望された早い段階で、ご家族から要望や不安などを聴く機会を設け信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居希望や見学時に、本人や家族の希望を踏まえて、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしている。	趣味では編み物を続ける人は職員と一緒にクリスマスイベント用の帽子を編んでいます。またほぼ毎日面会のある伴侶や、月数度訪問がある友人がいたり、妹が経営する美容院に通う利用者もいます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は暮らしを共にする者として日常的な活動を共に行い、また家族のように感謝を表したり、得意なことを教えていただいたりし、共に過ごし支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族も参加できる行事を企画し、いつでも面会や外出、外泊できるよう配慮し、ご本人とご家族の絆を大切に、共に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方がいつでも訪ねて来れるよう配慮している。また散歩時に一緒に知人宅を訪ねるなど関係の継続を支援している。家族同士で馴染みの美容室へ行く、墓参り、自宅へ外出外泊など、自由になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・相性が合わない方もおられるが、職員が間に入ることで孤立せず利用者同士が穏やかに関わり合えるように橋渡しを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も、気軽に訪ねて頂いたり、要望があれば、いつでも相談を受けるなどの体制づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中での利用者一人ひとりの思いを汲み取ったり聴いたりし得た情報は記録(タブレット)で申し送り、職員間で共有し本人の希望に繋げている。	認知症症状についての内容が薄かったため入所まもなく乱暴を振るって驚いたという例をはじめ、大なり小なり入所時情報とは実際は違っていることがあるため、1ヶ月を目安にアセスメントをとり直しています。	タブレット共有の介護記録には当初は戸惑ったものの現在は全員が使いこなしているとのことですが、今後はデメリットも見出し、ある場合は早めの解決保全をお願いします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居が決まり早い段階に、本人、家族から生活歴、生活環境これまでの経緯などを伺い、利用していた事業所の情報提供を頂き、一人ひとりの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・施設の『一日の流れ』はあり、一日を過ごしているが、個別援助を多く取り入れるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、家族の意向をもとに定期・不定期にケアカンファレンスをし、現状に合った介護計画を作成するようにしている。	「教育ができる事業所で在りたい」として、全員参画の仕組みを検討中ですが、現在は計画作成担当者が職員に聞き取るなどして作成したものを介護支援専門員がチェックするという方式で完成させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で状態の変化、気づきは申し送り(タブレット)を活用し、ケアの統一を図り介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・認知症症状への対応だったり、急変だったり、その時々の変化の速さがあるが、幾度の課題に取り組むことでその時々への対応に慌てることなく対応することが大切だと周知し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・体操、読み聞かせ等ボランティアの方が来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用時に当事業所の協力医療機関に主治医の変更、もしくは今までの医療機関を継続するなどの選択をしていただいている。1回／4週内科医の訪問診療を受けており必要時は看護師が出向き話し医師との連携を図っている。当協力医以外の受診は家族対応をお願いしている。	月1回訪問診療のある協力医に8名が変更し、診療には職員(看護師)が立ち会っています。従来のかかりつけ医を続ける人は家族から通院情報を聞き取り、双方医療記録はタブレット保管で職員は誰でも確認できます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員は日々の心身状態を観察、記録し、看護職員に報告し指示を仰ぐとともに、必要時には主治医に報告し、受診できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には症状の落ちついた頃に面会に伺い、家族や医療機関より情報提供していただき、利用者様に最善と思われる対応を見極め、安心していただくよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用契約時に説明、家族の意向を確認し、早い時期より折に触れ、その都度家族の意向を確認しながらチームケアに繋げるよう取り組んでいる。	契約時には事業所ができる看取りの範囲を説明し、家族がその内容から特別養護老人ホームを併せて申込む等しています。歩けなくなった、食事が摂れなくなってくるといった段階の都度看護師、医師と相談しつつ、家族と相談の場を持つようにと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを作成し対応している。事故発生時にはカンファレンス、会議等で、原因究明し随時見直しを図っている。又、急変時の勉強会を折に触れ行うようにしている。急変時には、全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回火災想定避難訓練を予定している。(6月実施)防火管理会社の助言、指導の下行っている。又、地域の防災訓練に参加している。	本年の大停電は「どうしておけばよかった」を考える好機になり、風水害の対策マニュアルも現在作成中です。年2回の法定訓練には防災設備会社の指導も得ており、次回は夜間想定を実施することになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者様に尊厳ある声掛け、言葉使い、態度で対応している。	「職員の声が大きかったので雑談が耳に入った」との貴重な家族意見を糧とし、「自分たちの話をしたときは、利用者も話題に混ぜて～」と管理者から指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・一人ひとりの発言やつぶやきに耳を傾け、なるべく、ご本人が納得できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースに合わせられるよう努めている。難しい時などは、個別支援を増やすように心掛けることで希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・女性の利用者様が多いこともあり、お肌の手入れや化粧、美容などの身なりを整える時間を持つようにしている。一人ひとりの好みに合わせて、入浴後にはマッサージをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・なるべく一人ひとりの食べたいものなど聞きながら献立するが、好みの統一は難しい。調理しながら出来上がる料理の話題で調理時間から楽しく食事ができるよう配慮している。又、食事に集中していただくためBGMに音楽を流している。	食事は職員のアイデアでつくるためバラエティに富んでいます。調査当日はビビンバで、「韓国旅行に行った気分は？」と、職員のリード&ペースで楽しげに話す利用者の笑顔が和やかなムードを醸し出していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご本人の適量を知り、的確なカロリーにこだわらず家庭料理で摂取できるようにし、水分は記録で確認をしながら摂れる時に、お勧めし摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、やり忘れのないように洗面台にセットし、一人ひとりの歯磨きは見守りを含め、確認を行っている。毎夕食後には、洗浄剤に浸けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの状況に応じて、声掛け、見守り、介助を行い自立に向けた支援を行っている。	自立の5名は排泄記録をとらず、また残り4名も概ね尿意があるため、時間での声掛けはおこなっていません。周囲がトイレに向かう姿に刺激され、リハパンとパット対応だった人が現在は布パンという例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・身体を動かすことを多くし、水分も摂取できる時には、少しずつでも取っていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・毎朝と入浴前(昼食後)にバイタル測定し体調、その日の気分によってに支援している。	週2～3日を目安に湯に浸かり、「足湯は毎日」という利用者もいます。家庭の一般浴槽と、片麻痺に対応できる可動式のもの配置されており、「一番風呂」にも応え、拒否には日を替え、人を替えて取組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活パターンに合わせ、寝る時間起きる時間を状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・投薬カレンダーに個々の薬を入れてあり支援している。薬の説明書もファイルしてあり、主治医による薬の変更は、データ修正して、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの楽しみを見出し日々の生活の中で行っている。食事の準備、配膳、花をかける、庭の草取りなど、できることを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族からの外出希望など、近隣の神社までの散歩や図書館利用、利用者様の自宅など、一人ひとりに応じ、外出できるように支援している。	日々の散歩では出遭う人と会話をもったり、図書館や神社の花見も利用者のリクエストでおこなっています。紅葉狩りの帰りに回転寿司に寄ったところ、右手硬縮で左手で撮る人の食の進みも早く、皆喜んだことから、「回転寿司の日」を決めて毎月実施に至っています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・欲しいものがあれば、一緒に買い物に行き、ご自分で支払いできる方は、財布をお渡しし、ご自分で清算してもらっている。支払い等も一人ひとりに合わせた買い物が行えるよう同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけたいと言われれば、キッチンに設置してある電話を使って頂いている。手紙を書きたいと要望があった時には、便箋や封筒をお渡しし、やり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・南側に大きな窓があり、自然な光と季節を感じられる共有空間として活かしている。 又、廊下に面した居室ドアの横には利用者様の作品や写真などを飾っている。	壁の掲示はカレンダー程度に留め、絵画や壁紙の種類を増やすことでモダンな雰囲気が保たれていて、そのせいか利用者の振舞いや話しぶりにもたおやかさが滲みます。トイレや洗面所の手拭きもペーパータオルで感染症対策にも余念がありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・複数で共用したり個々で使用したりできるよう、その時々で様々な形にできる形の違う3種類のテーブルを取り入れている。共有スペースにはリクライニングできるソファを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人が使い慣れた家具や調度品をお願いしている。	大半の居室には使い慣れたベッドとチェストが持ち込まれています。小物はチェストの上に並べ、好みの洋服をハンガーで吊した部屋はまだ未完成な様子で、その人その人の暮らしをつくりつつあるといった印象です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部はバリアフリー、手すり、浴室内、トイレ等は、残存機能が活かせるようにしている。		